

# 輸入は新地金を除き増加

## スクラップ需給、メーカーの購買意欲薄いか

橋本 橋本健一郎氏リポート②

一月前半は、一七年十二月の中国の貿易統計

でドル建てでは輸出が前年比一〇・九%増、輸入

は四・五%増、九日のNY原油は続伸、前日比

一・二三ドル高の六二・九六ドルで二〇一四年十

二月以来三年ぶりの高値HIT! OPECを中

心とした協調減産、石油在庫の減少、米のイラン

に対する経済制裁再開に動く可能性も材料となり

一段高となった。などのプラス材料もあったが、

昨年十二月の米ADP民間雇用者数は前月比

二五万人増と発表され、事前予想の一九万人増

を上回ったと、十二月の米消費者物価指数(C

PI)はコア指数が前月比〇・三%上昇し、一

カ月ぶりの大幅な伸びとなった。インフレが一八

年に加速するとの見方を支える内容だった。ことを

嫌気しLMEアルミ相場はDOWN。一月初価格か

ら四七・五ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、米長期金利の指標となる一〇年物国債

利回りが一時二・七三%まで上昇(債券価格は下

落)したと、ECB(欧州中央銀行)が金融政策

を正常化(引き締め)するのではとの観測などのマ

イナス材料もあったが、中国の昨年第四四半期の

GDPが前年同期比六・八%プラスとなり、事前

予想の六・七%プラスを上回ったことを好感しLM

Eアルミ相場はUP、二月三日現在でLMEアル

ミ(現物後場)は二・二二八ドルと後半スタート価

減の四、七八五t。

### 輸入

輸入は新地金が前年比八・九%減の一一万七、

六五九t、二次合金が二・四%増の一〇万三、八

五八t、スクラップが四二・八%増の五六〇t、

合金スクラップは六七・五%増の四、二二〇t。

■前月の国内指標

日本アルミワム協会発表の庄延品の生産出荷

動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・

四%増の一七万〇、九四六tとプラスに転じた。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム

二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比二・

七%増の六万七、五六九tであった。

■概況

【自動車生産】

十二月の四輪車生産台数は七九万一、三一

五台で、前年同月比一・三%増となり、一五カ

月連続で前年同月を上回った。

輸出は四三万三、三九〇台で前年同月比二・

五%増。

【自動車販売】

一月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二

四万三、四三三台で前年比五・七%減と、四カ

月連続マイナス。

このうち、乗用車六・一%減、貨物一・八%

減、バス二・四%減。

### 【住宅着工数】

・平成二十九年十二月の住宅着工戸数は七

万六、七五一戸で、前年同月比二・一%減と

なった。また、季節調整済年率換算値では九

三・六万戸(前月比二・七%減)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比

で六カ月連続の減少となっており、利用関係

別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲

住宅ともに減となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視

していく必要がある。

【持家】

前年同月比では七カ月連続の減少(前年同

月比二・五%減、季節調整済の前月比では〇・

四%増)。

【貸家】

前年同月比では七カ月連続の減少(前年同

月比三・〇%減、季節調整済の前月比では九・

八%減)。(六面へ続く)

### 輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地

金が前年比三三・九%増の三一四t、二次合金

が二・〇%増の二、四二九t、スクラップが七・七

%増の一萬二、二七七t、アルミ缶が一・二・四%

増の一萬二、二七七t、アルミ缶が一・二・四%

### ◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数

### ◆貿易関連指標

は前年比二・二%減の七万六、七五一戸であつた。

### ◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は

前年比一・三%増の七九万一、三一五台であつた。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車

販売台数(軽除く)は前年比五・七%減の二四万

三、四三三台。



(四面より続く)

(分譲住宅)

前年同月比では先月の増加から再びの減少  
(前年同月比一・三%減、季節調整値の前月比  
では四・四%減)。

・分譲マンション

前年同月比では先月の増加から再びの減少  
(前年同月比一一・〇%減)。

・分譲一戸建住宅

前年同月比では三カ月連続の増加(前年同  
月比六・六%増)。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産  
実績】

生産は前年比二・七%増の六万七、五六九  
tと、三カ月連続プラス。

出荷は五・二%増の六万九、四六三tと、  
三カ月連続プラス。

このうち、出荷先別では鋳物八・四%増、  
ダイカスト五・三%増、板四%増、押出九・  
八%増、鉄鋼四・七%減、合金地金メーカ一  
三・七%減。

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産  
出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前  
年比二・四%増の一七万〇、九四六tと、再  
びプラスとなった。

板類は生産・出荷ともにプラス。押出類も  
生産・出荷ともにプラス。

【輸出】アルミ新地金が前年比三二・九%  
増の三一四t、二次合金が二・〇%増の二、  
四二九t、スクラップが七・七%増の一、  
二、二七七t、アルミ缶が一・二・四%減の四、  
七八五t。

【輸入】アルミ新地金が前年比八・九%減の  
一一万七、六五九t、二次合金が二・四%増  
の一〇万三、八五八t、スクラップが四二・  
八%増の五六〇t、合金スクラップが六七・五  
%増の四、二一〇t。

【見通し】

・自動車は生産が一・三%増、国内販売台  
数が前年比五・七%減。生産が一五カ月連続  
プラス、販売が四カ月連続マイナス。販売  
が四カ月連続マイナスに、今後も続くか注  
意が必要。

・住宅着工の動向については、前年同月  
比で二・二%減と六カ月連続マイナス。下げ  
傾向かどうか今後の動向に注目。

・アルミ圧延・押出品生産数

板類・押出生産合計は、前年比二・四%増  
の一七万〇、九四六tと、一カ月ぶりプラス。  
今後プラスが続くかの動向に注目。

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生  
産実績

生産は前年比二・七%増の六万七、五六九  
tと、三カ月連続プラス。

出荷は五・二%増の六万九、四六三tと、  
三カ月連続プラス。

・アルミ輸入は自動車生産の堅調から二  
次合金及びスクラップは増加。その他は  
減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、自動車生産・住宅着工などが  
比較的好調だったことから、そこそこある  
のではないかと。

需要面に関しては自動車の生産は好調だ  
が販売が二カ月連続減少していることや、  
十二月にLMEアルミが二、〇〇〇〇〇、一  
〇〇ドル近辺と一〇〇ドル程度下落した場  
面での在庫が今もあることから、購買意欲は  
薄いのではないかと。

【価格・為替予想】

今月はアメリカの金融政策の動向や平昌  
五輪後の北朝鮮問題に左右される

アメリカの金融政策に関しては、雇用  
統計の結果を受けて長期金利の指標となる一  
〇年物国債利回りが一時二・八五%とほぼ四  
年ぶりの水準に上昇、株式の相対的な割高感  
や米利上げペースが速まる可能性が意識され  
NYダウが六六五ドル大幅下落した。

今後企業減税などから好調な経済指標  
がでてくる可能性が高く、商品・株などからの  
資金流出が懸念される

北朝鮮問題に関してはオリンピック前の  
視察キャンセル、共同事業の中止、軍事パ  
レードの開催疑惑などがあるが、一方的に  
悪化する可能性もなく一進一退か？

それらを踏まえた二月のアルミ価格は、米  
金融政策で引き締めや示唆するようなコメ  
ントが行わず、北朝鮮が追加的な軍事的ア  
クションを起こさなかった場合、先月一段  
高値の二、三〇〇ドルを予測。いずれかの  
場合は二、二〇〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった  
場合、先月安値の二、一〇〇ドル。

為替は、前記材料から円安値は九月後半安  
値の一〇八円〇〇〜一二円(TTM)台を予測。  
スクラップ購買価格に関しては〇〇五円  
高程度と予測している。